

柔道のU18ドイツ選手団

8/16 きょうから延岡合宿 30日まで



会場の延岡市民体育館でスタッフの話を聞く選手たち
(きょう午前)

ドイツ柔道連盟のU18 (18歳以下) 代表選手団の合宿がきょうから、延岡市民体育館ではじまった。同市は2020年東京五輪・パラリンピックの同国ホストタウンに登録されており、その交流事業の一環。将来の五輪を目指す若手柔道家46人が30日まで、練習や国際交流を行う。

昨年11月には、同国代表がグランドスラム東京の事前合宿を実施。今回は同国のジュニア世代のトップ選手と、スタッフ・コーチ計53人が来延した。練習は同体育館で午前

9時30分から2時間と、午後4時から7時間30分。期間中、旭化成柔道部による技術指導や、延岡工高、延岡学園高、土々呂中での交流事業も実施される。

昨夜遅く、宿舍の奥むかばき青少年自然の家に到着した選手たち。きょう午前は、合同合宿を行う宮崎日大高柔道部の選手たちとともに、市民体育館で畳の設営などを行った。

五輪以降も交流続けたい

ドイツ柔道連盟副会長 シュペッカーさん

3回目の来延で、今回はU18代表選手団を引率するドイツ柔道連盟副会長ノルベルト・シュペッカーさん(53)。今回の合宿の目的や延岡の印象などを聞いた。

「カデ」という年代の選手たちで、日本では中学生と高校の1、2年生に当たります。五輪を目指すと、ドイツの全国大会の王者などトップクラスの選手たちです。

初めて日本に来る選手がほとんどです。柔道発祥の日本で、本当の柔道を知ることができ、小さい街ですが、自然が豊かで、人も温かいです。

2020年の東京五輪までの付き合いではなく、また延岡にドイツの選手を連れてきたり、延岡の選手がドイツに行くような交流ができればと考えています。



シュペッカーさん。右は市国際交流員のカリナ・ブプリスさん

2018.8.16